

Plan S に関する整理

- 国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)運営委員会は、国内外のオープンアクセスイニシアティブや関係組織と連携して、我が国の学術コミュニティにおけるオープンアクセスの推進や学術情報流通の促進、情報発信力の強化に取り組んできた。このことから、ヨーロッパを中心とした研究助成機関のイニシアティブである cOAlition S が、公的助成を受けた研究成果の完全で即時のオープンアクセスを義務化するために策定した Plan S とその実施のためのガイダンスに注目するとともに、この方策が日本の学術情報流通環境に及ぼす影響について、整理を行った。
- 学術情報流通のオープン化については、未だ研究者コミュニティ全体や図書館員、その他の大学関係者においても、コンセンサスが得られているとは言えない状況である。そのため、学術情報流通のオープン化に向けた方策の実質化には、研究者コミュニティとそれを取り巻く関係者の慣習、産業、文化等への配慮や移行期間が必要である。併せて、研究助成のあり方に留まらず、研究評価や学術雑誌のあり方を視野に入れた検討も学術界全体でなされる必要があると考える。
- 以上のことを踏まえて SPARC Japan は、Plan S とそのガイダンスにおける方策を、我が国を含めた諸地域の実情に照らし合わせた場合に、以下のような留意事項があると認識している。
 - 研究者コミュニティが研究成果を公表するためのジャーナル及びプラットフォームに、条件が課せられていることによる、公表の機会の制限
 - ジャーナル及びプラットフォーム以外に研究成果を公表する手段として挙げられた、オープンアクセスリポジトリに求められる機能要件への対応
 - 出版社に依拠しない媒体として我が国が着実に整備してきた、研究成果公表手段としての機関リポジトリや J-STAGE の再認識、及びその積極的な利活用方策
 - 非英語圏の学術出版におけるオープン化や FAIR 原則を実現するための、インフラ整備支援の促進
 - 言語圏や研究助成文化が異なる研究者コミュニティの共同研究を支援するための、cOAlition S に参画する助成機関間の調整

- ジャーナル購読料を通して学術情報流通に係るコスト負担を担ってきた大学図書館等との、OA費用負担についての調整

- 先に述べた通り、SPARC Japan はその立ち上げ当初より、学術情報流通の変革を目的とした諸活動を展開してきたことから、この方策の動向を注視している。また、国内外の学術情報流通に係る関係者間の対話や連携が促進され、引いてはオープンアクセスがより一層普及することを強く希望するものであり、日本においては、こうした世界的な動向を踏まえて、研究者コミュニティが受容可能な環境整備を進めることを支援する。併せて、学術論文に限らない研究データ等の研究成果を幅広くオープンにし、科学の変容を促して新しい学術情報流通の仕組みを生み出す活動にも注力していく。

参照:

- cOAlition S:
<https://www.coalition-s.org/>

- Plan S: Plan S Accelerating the transition to full and immediate Open Access to scientific publications
https://www.scienceurope.org/wp-content/uploads/2018/09/Plan_S.pdf

- ガイダンス: Guidance on the Implementation of Plan S
https://www.coalition-s.org/wp-content/uploads/271118_cOAlitionS_Guidance.pdf

- 国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan):
<https://www.nii.ac.jp/sparc/>